

地方学の実践支援プログラム 2026 Q & A

Q & Aについては、随時更新する可能性があるため、必要に応じて適宜最新の情報をご確認ください。

1. 申請に関して

Q. 研究計画段階でも大丈夫か。また、応募の際に計画段階でも実現可能性を訴えるためのポイントは何か。

A. 計画段階で構いません。実現可能性については、募集要項（6. 審査方法）をご確認ください。

ただし、実施途中でのリタイアは原則認めていませんので、計画通りにいかなかったとしても、どのようなことをおこなったのか、なぜうまくいかなかったのか、今後の展望、などは成果報告の際に報告していただきます。

Q. 具体的な自治体との連携の度合いを知りたい。

A. 「北海道の自治体や団体であること、連携先は候補の段階でも申請可能」としていただけますので、その地域で活動している団体でも可能です（連携先は必ずしも自治体でなくても可）。
「連携の度合い」の基準は一概に設定はしていませんが、本プログラムは、「北海道の地域社会や団体と連携しながら、現場地域（フィールド）において課題解決を主体的に取り組む大学院生の支援」を目的としておりますので、これを加味し申請いただければ幸いです。

Q. 事前の自治体等への許可や裏取りがどの程度必要か。

A. 事前の自治体等への許可や裏取りは特に求めません。

2. 出張に関して

Q. 日帰り出張は可能か。交通手段でレンタカーを使用しても良いか。

A. 日帰り出張は可能です。レンタカーは原則使用できません。

Q. 旅費（交通費）については、公共交通機関を利用した場合のみの支給（実費）となるのか。調査対象地域の交通の便が悪い場合の旅費の支給方法を知りたい。

A. 自家用車を使用した旅費の申請は認められません。また、レンタカーやタクシーの利用も

原則認めていません。

公共交通機関による現地への行き来が困難な場合は、プロジェクト採択後に担当 URA に相談してください。

3. その他

- Q. 参加が必要なグループワーク、報告会の企画・運営の詳細を知りたい。
- A. 3月上旬（予定）の成果報告会は参加必須です。日程調整は12月頃におこないます。
また、採択者にはプロジェクト開始前に採択者向けガイダンスを実施します。詳細は募集要項（8.プロジェクト採択後）をご確認ください。
- Q. JASSO 奨学金の返済免除に関わる特に優れた業績の評価項目に当たるのか（独立行政法人日本学術振興会及び民間財団が公募している競争的資金の獲得がある）。
- A. 本プロジェクトの支援はいわゆる競争的資金ではないので該当しないと思われます。詳細は JASSO 事務局か所属部局の奨学金担当にご確認ください。
- Q. 消耗品費で購入した物品は、プロジェクト終了後、どうするのか。
- A. 返却の必要はありません。
- Q. 学内の教育プログラムの教員がプロジェクトの責任者（指導教員）を務めることは可能か。その際、学生が所属する各部局の主旨導教員からの承諾は別途必要か。
- A. 学内の教育プログラムの教員を実施責任者とすることはできません。
学内の教育プログラムでの取り組みから発展したプロジェクト内容であったとしても、実施責任者は所属する研究室やゼミの指導教員に依頼してください。

問い合わせ先

北海道大学 統合 URA 本部

【担当：高野、加藤、大谷】

e-mail: jikatagaku_koubo2@oeic.hokudai.ac.jp